

平成21年秋 備陽史探訪の会 バス例会

下道氏と金田一耕助に出会う旅



行 程

平成21年11月1日(日) 晴れ

8:15 福山駅北口 出発

↓

9:30 「園勝寺」探訪(井原線三谷駅から徒歩約15分)

↓

※山門までゆるやかな登り坂です(トイレあり)

10:15 「下道氏墓」探訪(県道から徒歩約10分)

↓

※途中、急な坂道(舗装)があります(トイレあり)



↓

11:15 「真備ふるさと歴史館」見学(歴史館前にバス駐車場あり)

↓

※見学後、徒歩(約10分)にて「疎開宅」へ(トイレあり)

12:00 「横溝正史疎開宅」見学

↓

※“金田一弁当”で昼食(トイレあり)。

↓

食後は、小説の舞台を歩きながら、歴史館に戻ります(約30分)

13:30 「巡・金田一耕助の小径」探訪(バスにて)

↓

※清音駅・川辺宿などで、クイズに挑戦！一部歩きます。

14:15 井原鉄道「川辺宿」駅

↓ ※ミステリーツアーの終着点(トイレあり)

14:30 「勝負砂古墳」探訪

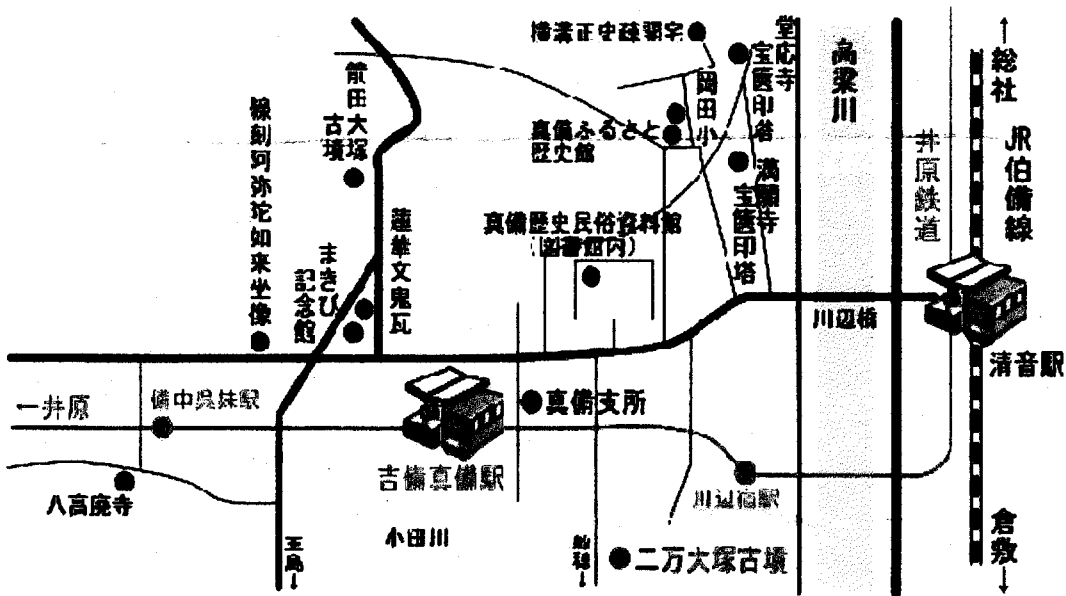
↓ ※調査後埋めもどしており、藪の中のためバスの中から探訪

15:00 「二万大塚古墳」探訪

↓ ※石室は崩落の危険があり、埋め戻されています(トイレあり)

16:00 「真備歴史民俗資料館」見学

↓ ※図書館に併設。



↓ ※時間があれば「まきび公園」も探訪(トイレあり)

18:00 福山駅北口 到着(予定)

囀勝寺（小田郡矢掛町東三成）

吉備真備公の祖母の骨蔵器を祀る寺



矢掛町の中心部から東に約三キロ。鷲峰山の麓に吉備真備公ゆかりの囀勝寺(こくしょうじ)があります。

創建は、天平勝宝8年(726)。吉備真備公によって創設されたと伝えられています。本尊は地藏菩薩。昔は地藏院、或いは中蔵坊得道寺とも称していましたが、享保15年(1730)に、吉備公の父囀勝(くにかつ)の名にち

なんで囀勝寺と改称されました。

この寺が世に知られるようになったのは、元禄12年(1699)に、東三成(ひがしみなりの)丘尾から、吉備公の祖母の青銅製骨蔵器(国指定重要文化財)が掘り出され、同寺に祀られてからです。以来多くの人々が、吉備公ゆかりの寺として遠近を問わず、骨蔵器などの拝観に訪れるようになったということです。

骨蔵器は総高23.8センチで、口径12.0センチ、高さ15.8センチ、厚さ6ミリ、重さ4.96キログラムの深鉢型の本体に、直径24.7センチ、高さ8.8センチ、厚さ6ミリ、重さ2.675キログラムの蓋が付いています。

その蓋に一重の円圈がめぐらされ、内円に「銘下道囀勝弟囀依朝臣右二人母夫人之骨蔵器、故知後



人明不可移破」と、吉備公の父である下道朝臣囀勝と、弟である囀依の母の骨蔵器であることを記し、外円には「以和銅元年歳次戊申十一月廿七日己酉成」と、紀年が銘文で記されています。

遺骨は、境内に小社殿を建立し祀られていましたが、享保13年(1728)に京都吉田家から「光明靈神宮」の神号を授けられました。

また、同寺の境内には榎、檜など数百年を経た大木もあり、市指定の天然記念物となっています。

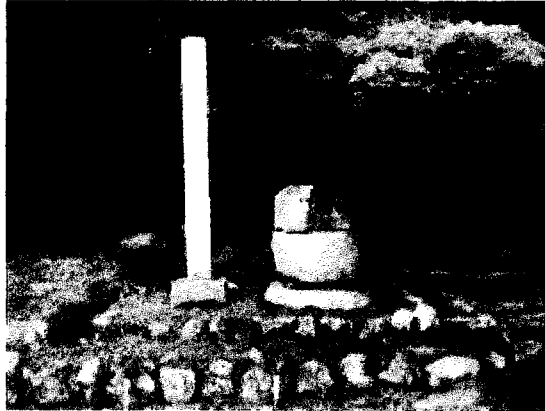
国指定史跡 下道氏墓（小田郡矢掛町東三成）

吉備真備公の祖母の骨蔵器が出土した場所

下道氏(しもつみちし)は、奈良時代の吉備の国で、大きな権力をもっていた一族です。

下道氏のなかでは、奈良時代のすぐれた学者であり政治家でもあった吉備真備が有名です。

吉備真備は、遣唐使として、今の中国にわたり、たくさんの学問を学びました。



現在では死んだら火葬にされますが、当時の日本においては、土葬が常識でした。火葬の風習は、元々はインドなのですが、そのインドから中国～朝鮮を経て日本に火葬制度が伝わったのが西暦 700 年とされています。

最初に火葬されたのが道昭という僧侶、その後、持統天皇(702 年崩御)や文武天皇(707 年崩御)など、天皇家も火葬の葬送儀礼を採用しているのですが、真備の祖母は、708 年に火葬されています。

日本で最初の火葬が行われてからわずか8年後のことです。

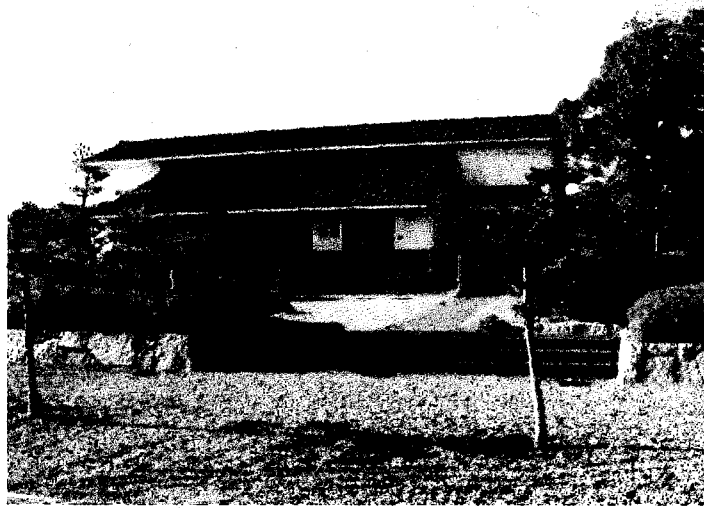


これは真備の父親である罔勝の判断でしょうが、こうした先端の文化を柔軟に受け入れ、実行するところに多くの学者の注目が集まっているようです。

上の写真は祖母の骨壺が見つかったとされる場所。下道氏の墓所だったのでないかと言われています。

真備ふるさと歴史館（倉敷市真備町岡田）

岡田藩の歴史と横溝正史に出会う資料館



正史コーナー」を設けています。

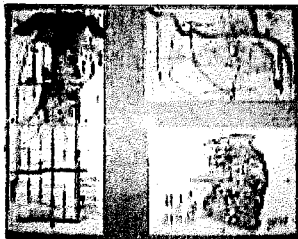
真備ふるさと歴史館は、江戸時代の真備町、岡田藩支配時代の古文書を保存した文書館です。

当時の村の支配や、産業興しの工夫、災害を防ぐ努力など先祖の足跡に触れることができます。

また、真備ゆかりの推理作家、横溝正史氏の遺品をご家族から寄贈いただき、「横溝

岡田藩は、現在の倉敷市真備町岡田（現在は岡田小学校）に御屋敷がありました。藩主は伊東氏、本姓は藤原氏。代々伊豆伊東に居たので、伊東を氏としました。

領地は真備町の旧矢田村（岡山領）を除く全てと 玉島の旧陶・服部村、総社市の旧新本・水内村で10ヶ村と、美濃国・河内国・摂津国に5ヶ村ありました。



石高は、1万343石の小さな藩でした。藩祖伊東丹後守長実が入国した当時は、服部村谷本へ8年、上二万村へ一時移り、川辺村土居屋敷に40年間いました。その後岡田村中村へ移り、入国から10代255年間の内で、7代200年間、

明治維新まで岡田にいたこととなります。

横溝正史とその一家は、東京から岡田村に疎開してきて、足掛け四年間をこの村で過ごしました。

そして敗戦直後に、日本初の本格探偵小説「本陣殺人事件」や、「蝶々殺人事件」「獄門島」「八つ墓村」などの大傑作をこの地で著述します。



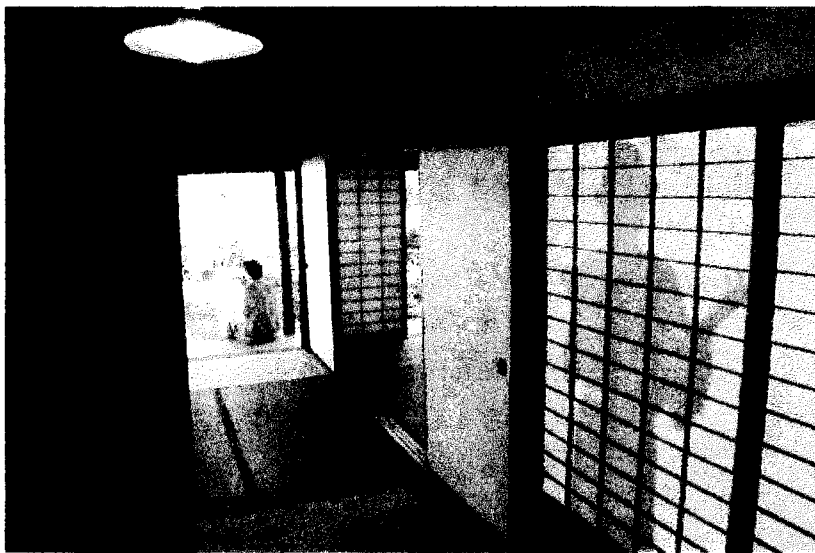
この町が舞台となった「本陣殺人事件」から誕生した名キャラクター“金田一耕助”も事件解決の為に、この歴史館の周辺を徹底的に歩き回っています。

横溝正史疎開宅（倉敷市真備町岡田）

名探偵金田一耕助の生まれた家

ぼさぼさの髪に、前がはだけた着物姿。山すそ一面に田んぼが広がるのどかな農村を、うろうろする一人の男がいた。ある時は池のほとりにたたずみ、またある時は、ふらふらとよろめきながらあぜ道をさまよった。

太平洋戦争末期の一九四五年春、東京での戦火を避け、推理小説家・横溝正史（1902～1981



年)一家が吉備郡岡田村字桜(現在の倉敷市真備町岡田)に疎開、約3年半を過ごしました。正史の両親が吉備郡周辺の出身だったのが縁となったのです。

すでに作家としては名をはせ、創作に没頭する姿は、今で

も地域の人々に語り継がれています。

疎開宅から南に下り、道が交差するところに小さな祠(ほこら)があります。

この祠こそ、地元で祀っている「こいちゃのぼあさん」で、横溝は「こいちゃのぼあさん」のいわれを村人から聞いて、小説『八つ墓村』で「たたりじゃあ」という異様な姿の「濃茶の尼」を登場させました。



「巡・金田一耕助の小径」(10月1日～11月30日)

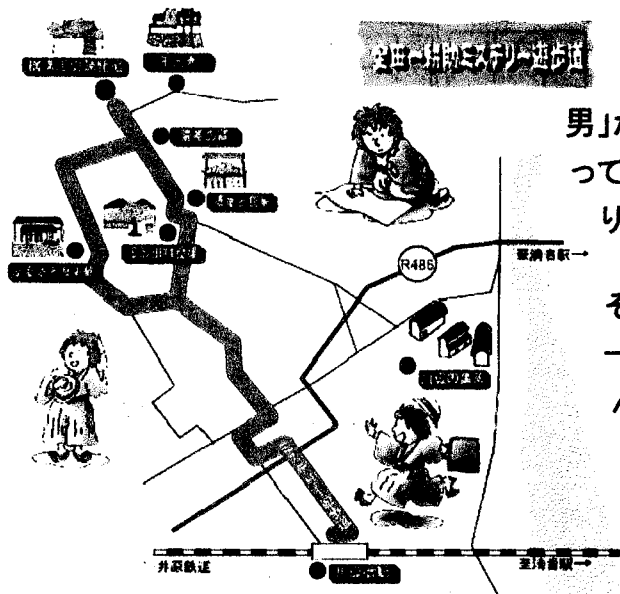
名探偵金田一耕助とともに謎解きに挑戦!

昭和12年初冬。「本陣殺人事件」事件は、江戸時代までは山陽道川辺宿で本陣を務めていた大地主の一柳家で起こりました。当主の結婚式の夜、密室で新郎新婦が血まみれになって死んでいたのです。その謎を解くために登場するのが金田一耕助。ここに、以後77の難事件を解決する名探偵がデビューするのです。

一柳家には、当時の国鉄伯備線清音駅が最寄り駅。金田一耕助もここから歩きはじめました。



清音駅から西に向かうと、間もなく岡山三大河川の一つの高梁川。今は自動車専用道と自転車・歩行者専用道の2本の橋が架かっていますが、金田一がブラブラと渡ったのは南側の旧山陽道に架かる川辺橋。川を渡った堤防の先に旧川辺宿があります。高梁川の氾濫で何度も流されているので、古い宿場の面影は少ないのですが、どことなく余韻が漂う心地よい町筋です。金田一はこの川辺宿の街はずれから北西に田んぼの中の一本道を岡田村役場に向かいます。



やがて旧岡田村役場のあった児童公園。その向かいには、小説で「三本指の男」が現れる一膳飯屋があり、今も面影が漂っています。ここから、疎開宅はさほど遠くありません。

そこで! ミステリーブックを片手に、金田一耕助がたどった道筋で、なぞ解きを楽しんでもらおうというのが、現在、倉敷市がおこなっている「巡・金田一耕助の小径」イベントです。

期間中のイベントは、

- ① ミステリーツアー(毎日OK)、
- ② 「本陣殺人事件」トリック再現! 11月8日(日)と22日(日)の10時と14時
- ③ 1000人の金田一耕助集合! 11月22日(日)ほかパーティー・講演会も

県指定史跡 勝負砂古墳（倉敷市真備町下二万）

5世紀後半の未盗掘の前方後円墳

勝負砂古墳は、二万大塚古墳の東400mにある全長42mの帆立貝式古墳で、今回の調査で、後円部から竪穴式石室を検出しました。

内法寸法は、3.59×1.2×0.6mで、床には円礫が敷かれ、側壁は角礫を積み上げ、天井石は8枚、一

部に木材の痕跡も見られます。石室を構築してから墳丘を盛っているため、墳頂から石室床面まで4mもあります。この深さが石室を盗掘から防いでくれました。土砂も一部しか流入してなかったため、石室内は副葬品が埋葬状態のままで出土しました。



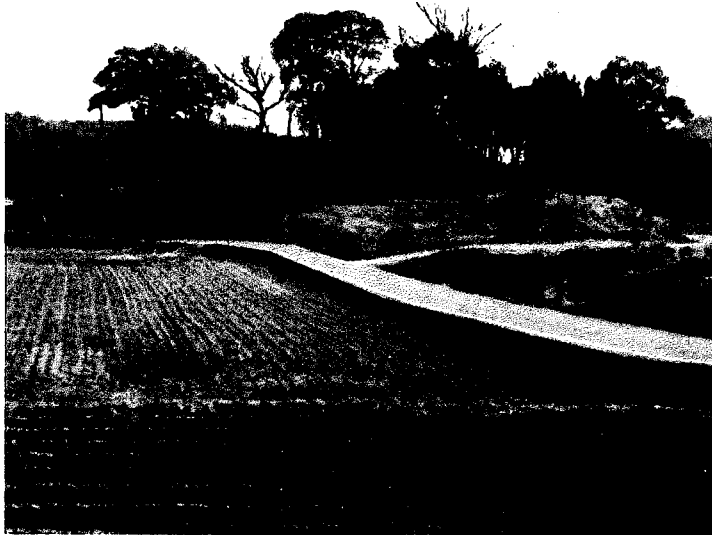
東端では、頭骨、歯、銅鏡とそれを包む有機物、中央付近では、鉄刀、鉄鏃、砥石、土器、西側には、短甲、馬具一式などが置かれていました。

馬具の中には、国内では例がない、透かし入りの飾りが見つかっています。副葬品や石室の構築方法は朝鮮半島南部に由来してお

り、被葬者は海外ともつながりを持つ5世紀後半の武人的性格をもった有力者と考えられます。

市指定史跡 二万大塚古墳（倉敷市真備町下二万）

6世紀の横穴式石室を有する前方後円墳



二万大塚古墳は、真備町を東西に貫流する小田川に南から流れ込む小支流二万谷川が形成した谷の東岸に位置しています。

平成13年(2001)から平成16年(2004)にかけて行われた、岡山大学による発掘調査の結果、全長38mの前方後円墳で、北側の括れ部には造り出しを持つことも確認

されました。

ここからは人物埴輪、家形埴輪や多数の円筒埴輪さらに須恵器が整然と並べられ祭壇状施設となっていたことが明らかになり、この時期の葬送祭祀の様相を考える上で貴重な資料となりました。

埋葬主体としては後円部に南南西に開口する横穴式石室を持つことが確認され、石室は両袖式で全長9.1m、玄室の長さは4.7m、幅は奥壁で2.5mを測り、比較的小降りの石材を5~7段に積んでいました。

石室から須恵器、土師器、鉄器、馬具のほか装身具として耳環、玉類が出土しています。須恵器の時期は6世紀中頃から6世紀後半までの幅があり、数度の追葬が行われていたと考えられています。



二万大塚古墳は、高梁川西岸で最終段階の唯一の前方後円墳というだけでなく、横穴式石室を持つ前方後円墳では吉備で最も古い段階の古墳です。

真備歴史民俗資料館（倉敷市真備箭田）

真備町内の遺跡出土品・民具の展示施設

真備地区に残された遺跡や遺物から、古代の様相を展示する「大昔の人々が残したもの」と、ひと昔前の農具・生活用具を展示する「おばあさんおじいさんの暮らし」の二つで構成された資料館です。

真備図書館の中に設けられています。



その他に、もし時間があれば...

まきび公園（倉敷市真備箭田）



この公園は、昭和 61 年 5 月、中国西安市(旧長安)の環状公園内に、吉備真備の記念碑とその周囲に日本庭園が完成したのを記念し、吉備真備ゆかりの当地に建設されたものです。

公園内には、六角亭・門窓・竜頭などを配し、植栽している樹木は、おもに中国で尊重される榿・柳・梅などで修景して中国風公園とし、記念広場には、西安市に建設されている吉備真備の記念碑と同形の記念碑が設置されています。

またこの公園内には、吉備真備一族の菩提寺といわれている吉備寺や墳墓もあり、近くには、館趾や産湯の井戸・琴弾岩などの遺跡や名勝が散在しております。



備陽史探訪の会



平成21年11月
資料作成:古墳部会